



3:16 そのころ、二人の遊女が王のところに来て、その前に立った。

3:17 その一人が言った。「わが君、お願いがございませぬ。実は、私とこの女とは同じ家に住んでいませぬが、私はこの女と一緒に家にいるとき、子を産みました。」

3:18 私が子を産んで三日たつと、この女も子を産みました。家には私たちのほか、だれも一緒にいた者はなく、私たち二人だけが家にいました。

3:19 ところが、夜の間に、この女の産んだ子が死にました。この女が自分の子の上に伏したからです。

3:20 この女は夜中に起きて、このはしためが眠っている間に、私のそばから私の子を取って自分の懐に寝かせ、死んだ自分の子を私の懐に寝かせました。

3:21 朝、私が子どもに乳を飲ませようとして起きると、どうでしょう。その子は死んでいるではありませんか。朝、その子をよく見てみると、なんとまあ、その子は私が産んだ子ではありませんでした。」

3:22 すると、もう一人の女が言った。「いいえ、生きているのが私の子で、死んでいるのがあなたの子です。」先の女は言った。「いいえ、死んだのがあなたの子で、生きているのが私の子です。」女たちは王の前で言い合った。

3:23 そこで王は言った。「一人は『生きていられるのが私の子で、死んだのがあなたの子だ』と言ひ、また、もう一人は『いや、死んだのがあなたの子で、生きていられるのが私の子だ』と言ひ。」

3:24 王が「剣をここに持って来なさい」と言ったので、剣が王の前に差し出された。  
3:25 王は言った。「生きている子を二つに切り分け、半分をこちらに、もう半分をそちらに与えよ。」

3:26 すると生きている子の母親は、自分の子を哀れに思って胸が熱くなり、王に申し立てて言った。「わが君、お願いです。どうか、その生きている子をあの女にお与えください。決してその子を殺さないでください。」しかしもう一人の女は、「それを私のものにも、あなたのものにもしないで、断ち切ってください」と言った。

3:27 そこで王は宣告を下して言った。「生きている子を初めのほうの女に与えよ。決してその子を殺してはならない。彼女がその子の母親である。」

3:28 全イスラエルは、王が下したさばきを聞いて、王を恐れた。神の知恵が彼のうちにある。

神様から知恵を与えられたソロモンは、この世できごとに対しても、よき対応をすることができた。主のために知恵を求めたからです。私たども神の知恵をいただき、よい働きをして、世のためになりましょう。

また「全イスラエルは...王を恐れた」と、ソロモンの権威が記されています。人を押さえつけるのが権威ではありません。むしろ人を愛し、主を恐れ従い、主と人の役に立つことが、結局権威となることを知ります。それは人々からの評価全般に言えておられることを信じましょう。主が生きておられる権威をいただきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたなどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

